

**クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2020 実施要項**  
**(兼：日本オリンピックアカデミー第8回ユースセッション)**

**【目的】**

- 1) オリンピック教育：日本の高校生にオリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解させる
- 2) 選考：第13回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム（2021年、キプロス）への参加者を  
選考する<sup>注1)</sup>

**【主催】** 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）<sup>注2)</sup>

**【共催】** 中京大学<sup>注3)</sup>  
日本ピエール・ド・クーベルタン委員会（CJPC）<sup>注1)</sup>  
特定非営利活動法人サロン2002（NPOサロン）<sup>注4)</sup>  
特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー（JOA）<sup>注5)</sup>

**【協力】** 東京都高等学校体育連盟研究部<sup>注6)</sup>  
中京大学スポーツミュージアム<sup>注7)</sup>

**【期日】** 2020年12月26日（土）、27日（日） ※両日とも9：00～17：00

**【会場】** オンライン（Zoomを利用）

**【参加者】** 高校生30～50名

2015年度以降、計5回（宿泊研修3回。都内での2日間の研修2回）開かれた本事業に生徒を派遣した高校、（筑波大学附属高校・同附属駒場・同附属坂戸高校、中京大学附属中京高校、帝京高校、自由学園（男女）、クラーク記念国際高校、東京都高体連研究部常任委員校ほか）およびスポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」推進校などの生徒を想定。個人での「オブザーバー参加」を認める（ただし、学校長の承認がない場合は第13回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの選考対象としない）。

**【プログラムとスケジュール（予定）】** ※あくまでも現時点の構想です。関係機関と今後調整し確定します。

◆12月26日（土）

- 9：00～10：00 オープニング／オリエンテーション
- 10：10～11：00 講義① オリンピズムとクーベルタン<sup>注8)</sup>
- 11：10～12：00 講義② 東京2020のゆくえー日本のオリンピック・ムーブメントと嘉納治五郎<sup>注9)</sup>
- 13：00～14：30 講義③ 国際スポーツ大会におけるおもてなしの心<sup>注10)</sup>
- 14：30～14：50 コミュニケーションゲーム
- 15：00～17：00 演習① 中京大学スポーツミュージアム活動（オンライン見学とグループ活動）<sup>注11)</sup>

◆12月27日（日）

- 9：00～10：20 演習② OVEPを用いたグループ活動<sup>注12)</sup>
  - 10：30～12：00 演習③ 英語での討議<sup>注13)</sup>
  - 13：00～15：00 演習③のまとめと発表（日本語）
  - 15：10～16：00 オンラインエクササイズ
  - 16：00～16：45 クロージング
  - 17：00 解散
- ※課題レポートを12月28日（月）中に提出する<sup>注14)</sup>

**【参加費】** 無料

**【申し込み・問い合わせ窓口】**

参加をご希望の方は、12月16日（水）までに①氏名、②性別、③高校名・学年、④メールアドレス、⑤学校長承諾書（別紙、第13回国際大会への選考に参加する場合のみ：オブザーバー参加の場合は不要）を添えて、下記までお申し込みください。

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）事務局（担当：福田）  
youthforum@core.taiiku.tsukuba.ac.jp

< 注 一 覧 >

- 注1) 2年に一度、各国持ち回りで近代オリンピックの創始者の名を冠した「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム (国際YF)」が開催されている。主催はCIPC (国際ピエール・ド・クーベルタン委員会)。世界中から100名以上の高校生が集い、座学や討議、スポーツ交流やアート活動を通してオリビズムを学ぶ機会である。日本からは2009年に生徒2名がオブザーバー参加して以来、毎回参加。2015年からは7名のフルメンバーが認められ、参加者選考を兼ねた「国内YF」が、COREやNPOサロン、JOA (日本オリンピックアカデミー) 主催で開かれるようになった。2021年の国際YFはキプロスで予定されており、日本からの派遣生徒は、本YFで選考される。選考と派遣の母体は、CIPCの日本支部として2019年8月に発足したCJPC (日本ピエール・ド・クーベルタン委員会) である。
- 注2) 嘉納治五郎生誕150年の2010年に発足した筑波大学の学内組織で、日本初のOSC (Olympic Study Center) としてIOC (国際オリンピック委員会) から認定を受ける。11校ある附属学校を活かしながら「オリパラ教育」事業に先駆的に取り組み、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」をリードする。
- 注3) 中京大学で毎年「JOAユースセッション」の名称で、中高生向けの国内YFが開催されている。今回はオンライン開催となったこともあり、中京大学と筑波大学で連携して取り組むこととなった。
- 注4) スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げるNPO法人。その前身は1980年代のサッカー関係者の研究会にあり、1997年からサロン2002の名称で活動。月例会は今年12月で通算290回となる。2014年にNPO法人化。「オリパラ教育」事業やU-18フットサル事業などに関わる。
- 注5) ギリシャに本部を持つ国際オリンピック・アカデミー (IOA) を頂点とする世界の148 (2019年現在) の国や地域にある国内アカデミーの一つ。1978年に設立し2005年にNPO法人化。現在のJOAの中長期目標は「オリビズムの普及と浸透」で多くの事業に取り組む。国際YF派遣生徒の選考を兼ねた国内YFは、中京大学では「JOAセッション」の名称で開催。
- 注6) 東京都高体連加盟専門部の一つ。都内の高校運動部についての研究を推進するとともに、毎年「東京都高体連研究大会」を主催、部活動のあり方を意見交換する場となっている。2019年12月に都内で開催された「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2019」を主催、「オリパラ教育」への取り組みを開始した。
- 注7) 中京大学内に設置されたスポーツ専門ミュージアム。研究者が収集した資料や卒業生等の関係者が寄贈した資料約7,000点を所蔵。スポーツと社会のつながり、オリンピックの光と影を描き出すことをテーマにしたミュージアム。
- 注8) 田原淳子氏 (国士舘大学) または來田享子氏 (中京大学) が担当。田原氏はCIPCの副会長であり、国際ユースフォーラムの運営にも関わるオリンピック史研究者。來田氏は、日本オリンピックアカデミー理事、CIPC委員のオリンピック史研究者。
- 注9) 筑波大学の真田久氏が担当。真田氏はCORE事務局長として日本のオリンピック教育を牽引。2019年のNHK大河ドラマ「いだてん」では歴史考証に携わる。
- <http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/common-data/prof.php?ug&view=42>
- 注10) 筑波大学客員教授の江上いずみ氏が担当。大学や官公庁、企業、医療機関、介護施設などで「グローバルマナーとおもてなしの心」などの講演を手掛けるほか、全国の小中高等学校で「おもてなしの心」をテーマに講演中。<https://www.globalmanner.jp/profile.html>
- 注11) 中京大学スポーツミュージアムの学芸員、中京大学の大学院生/学生がサポートして実施。
- 注12) CORE事務局が主に担当。内容は現在調整中。OVEP (Olympic Values Education Programme) を用いた「オリビズム」に関するグループワークを予定。
- 注13) NPO法人サロン2002が主に担当。内容は現在調整中。オリビズムについてのグループ討議を英語で行い、グループごとの成果を日本語で発表する予定。
- 注14) 課題レポートを提出するところまでが本フォーラムの内容。派遣生徒の選考は、各活動への取り組みとともに課題レポートを評価資料とする。

前回の様子 (2018年：筑波大学開催分) は以下のリンクからご確認ください。

<http://core.taiiku.tsukuba.ac.jp/newtopics/yf2018>